



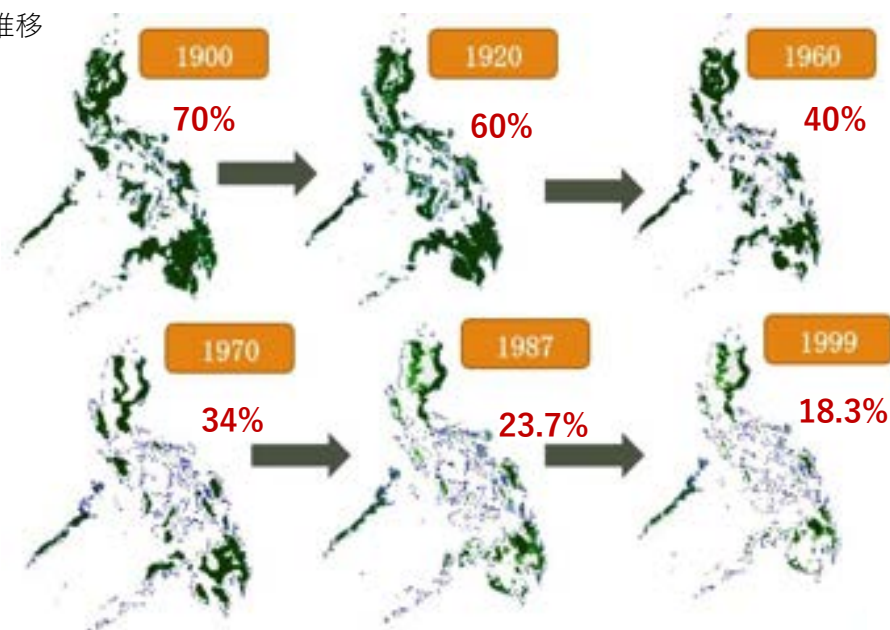
©Google Map

▶ アブラ州概要

人 口	250,985人（2020年） 年齢中央値26歳（2015年国勢調査）
面 積	3,975.6km ² （大阪府の約2倍）
言 語	イロカノ語、タガログ語、英語
主要産業	タバコ栽培（傾斜地小規模農業）
アクセス	マニラから州都バンゲッドまで陸路 10時間（※州内に空港なし）
季 節	乾季（12～5月）3～5月は猛暑 雨期（6～11月）

<https://www.gif-map.com/maps-of-asia/maps-of-philippines/physical-map-of-philippines-2>

▶ フィリピン森林率推移



〒168-0063
東京都杉並区和泉2-17-5
Tel (03)3322-5161
Fax (03)3324-7111
E-mail
oisca@oisca.org
<https://oisca.org>

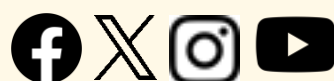
公式SNSをフォローして、オイスカの「今」を知ろう！



Website



←SNSはこちらのまとめリンクから



地球環境を考えるトークイベント2023秋

（オイスカ関西支部 30周年のつどい）

主催 / 公益財団法人オイスカ 関西支部

「災害のデパート」 フィリピン北部での 37年間の挑戦とこれから



2023年 11月 23日（祝・木） 15：00～16：30

国民会館「武藤記念ホール」

プログラム

15:00

開会挨拶

ー 公益財団法人オイスカ関西支部 会長 上村 良成 ー
（西日本旅客鉄道労働組合 中央執行委員長）

15:03

講演「世界各国におけるオイスカ10ヵ年計画と、フィリピン北部への想い」

ー 公益財団法人オイスカ 専務理事 永石安明 ー

15:13

トークセッション（使用言語：日本語）

「『災害のデパート』フィリピン北部での37年間の挑戦とこれから」

<コメンテーター>デルフィン・テソロ（オイスカ アブラ農林業研修センター 所長）
清水利春（オイスカ 関西研修センター 所長）

<モデレーター> マリア・グラゼン・アセリット（オイスカ 啓発普及部）

16:00

質疑応答

16:25

閉会挨拶

ー 公益財団法人オイスカ関西支部 副会長 畝川 寛 ー
（安治川鉄工株式会社 取締役副社長）

アブラ州の自然災害と、それに適応し被害を緩和するための
オイスカアブラ研修センターの取り組み

人と自然がつくる 持続可能な地域

災害をなくすことはできない。いかに被害を緩和し、災害に適応するか

2018年に気候変動の影響を最も受けた国は、1位日本、2位フィリピンとの報告があります(※)。フィリピン北部のアブラ州は、100年以上前の日本のような見渡す限りの「はげ山」が広がり、雨季は台風による洪水や風害、土砂崩れ、乾季は無数の山火事や乾燥害、地震も頻発する国内有数の貧困地帯です。(※Germanwatchの「Global Climate Risk Index 2020」より)

人材育成



累計 約1000人

訪日研修



累計 約200人

Regional Issues 01 / 乾燥害

アブラ川流域の78%をアブラ州が占めるが、その流域の60%には森林がない「ハゲ山」が広がり、灌漑面積も極めて少ない

コミュニティ フォレスト (海) (マングローブ／南イロコス州)



約100ヶ所

コミュニティ フォレスト (山)



約200ヶ所

「子供の森」計画

120校参加

(アブラ州内の学校164のうち)



災害復興支援



6回実施

(2023年実績)

Regional Issues 02 / 山火事

アブラ州の総面積3,975.6km²の71%が山岳地だが、焼畑や山火事などにより木々が焼失し、ハゲ山が連なる。乾季には草が枯れ、山肌が露呈。2023年の乾季は毎日のように山火事が発生



Regional Issues 03 / 土砂崩れ



©Licuan Baay Mdrmo

州の20%が地震や過放牧、採掘、焼畑により土壌が劣化。州の約70%が険しい山で、人口の約28%は地すべりや土砂崩れの災害リスクがある

Regional Issues 04 / 地震



アブラ州を縦断する断層線のため、人口の約94%が液状化現象※などによる建物の倒壊のリスクにさらされている (※地震の振動で地中の土砂が液体のようになり、水と一緒に地表へ吹き出す現象)

Regional Issues 06 / 風害



この地で警戒すべき主風は、台風とともにやってくる「東風」。しかし、山岳地帯の複雑な地形では一定方向に吹くとは限らない

Regional Issues 05 / 台風・洪水



©Bucloc MDRMO, Junalyn Balingoay

アブラ州が発表したデータによると、人口の12%、農地の15%が洪水の危険にさらされている

Regional Issues 07 / 貧困



アブラ州は、国内81州のうち「最貧10州」に含まれる。「国内競争力指数74位」「言語・文化の異なる先住民が70%で山岳地帯で地理的に孤立する不利な地域」と評される

▶ オイスカ アブラ農林業研修センター 実績概要

設 立	1984年10月（現研修センター建設 1991年1月）
研修生	累計約1200名 ・一般研修生（6ヵ月コース・訪日なし） ・訪日委託研修生（農業・畜産・工業（1年間）） ・訪日技能実習生（農業・畜産・工業）
研 修 科 目	有機・減農薬農業（稲作・蔬菜・果樹）、養鶏、畜産、日本語、生活指導、「子供の森」計画実施校での植林・育林・環境学習指導、山地造林や植林ボランティア指導
指導員	3名（日本人駐在員なし）
地 域 開 発	・住民への有機農業指導、女性生活改善、保健衛生など各種セミナー ・精米機ほか資機材供与 ・保育園建設 ・山火事の消火活動 ・水害や地震などの災害緊急復興支援
緑 化 活 動	・「子供の森」計画参加校160校で約200ha（南北イロコス州を含む） ・コミュニティフォレスト（マングローブ約100ha、山地約200ha） ・州都周辺国道沿い街路樹植林 ・日本からの緑化ボランティアツアー受け入れ（20名～100名／年）